

さいたま市SSSP令和7年度
教育データ利活用ワーキンググループ実証研究校
成果報告会

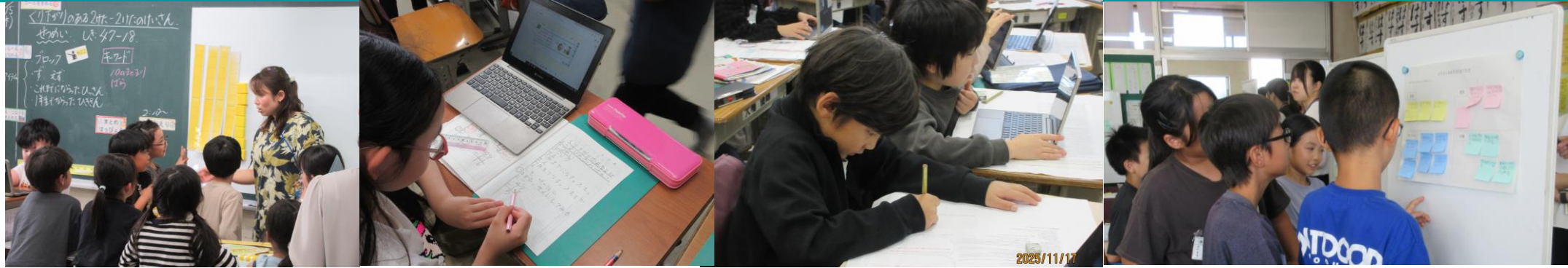


さいたま市立大宮別所小学校

2024 大宮別所小

○大宮別所小の研究について

【目標】



教育データを活用し、児童の学習意欲や確かな学力の育成に向けた、授業改善・指導力向上を図る。

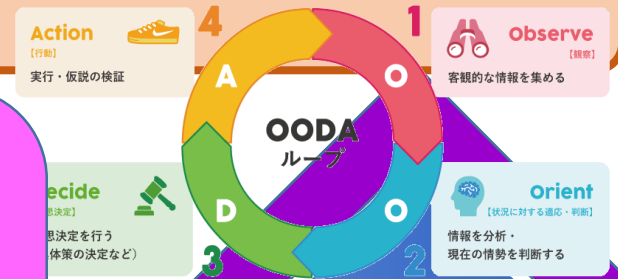
「分かった！」 「もっとやりたい！」 子の育成



スクールダッシュボードから組織的かつ効率的に児童の実態把握をし、以下の3つの視点で教育データ利活用について研究をする。

- 個に応じた教科指導
- **主体的・対話的で深い学び**につながる指導と評価の在り方
- **教育相談・生徒指導面**での適切な支援の在り方

研究主題 教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫



授業の改善

主体的・対話的で深い学びとなる
指導と評価の充実

<手だて>

- ・学習の見通しをもったり自分の考えをもったりし、主体的に取り組めるようにするための工夫
- ・対話的な学びとなるための工夫
- ・深い学びとなるための工夫
- ・個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実
(・学習スタイルを意図的に設定した単元計画、
・シンキングサイクルの掲示物を活用した授業、
・発問の吟味・これまでの研究実践を生かして)

孤立した学びにならないように

- ① 様々な教科で (教師が自分事として)
- ② 各教科で身に付けさせたい資質・能力と児童の実態をもとに、児童にどのような力を付けさせたいかを明確にする。
- ③ 本校の研究主題・概要を意識して、手だてを考える。
- ④ Excelでそれらを共有する。

**教師が変われば
学校が変わる**

児童一人ひとりの状況の把握(学習・生活)

学級・学年・学校全体の状況の把握

きめ細かな
指導・支援

実態の
把握

教育
データの
分析

<教育データ>

ア) スクールダッシュボード

児童の実態

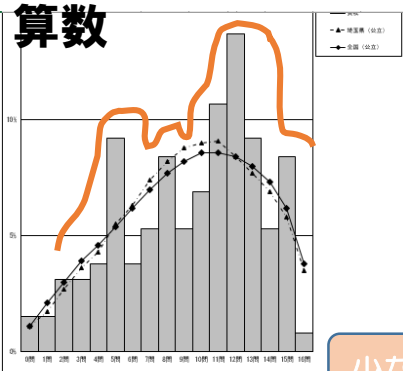
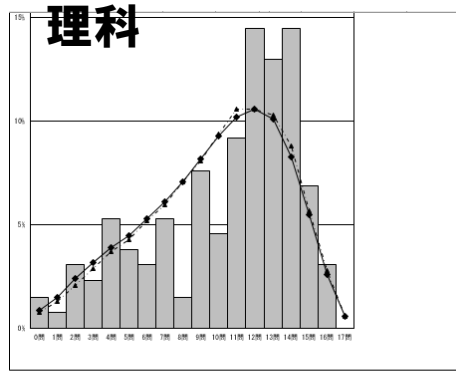
- ・児童の学習習慣や生活経験に差がある。

Well-being

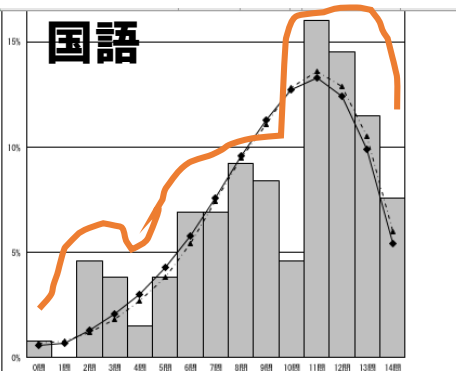
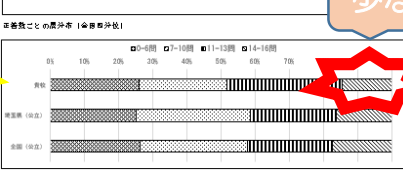
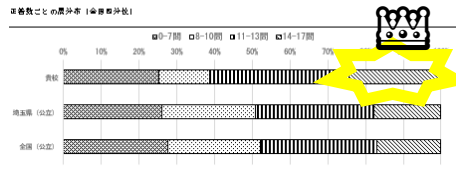
学力(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」認知能力、「学びに向かう力、人間性」非認知能力)

- ・主体的に学ぶ児童が多い。
- ・基礎学力の定着が課題。
- ・基本的な語句や計算の意味等の理解
- ・資料や情報を関連付けて思考すること
- ・自分の言葉で表現すること

①全国学調・市学調から

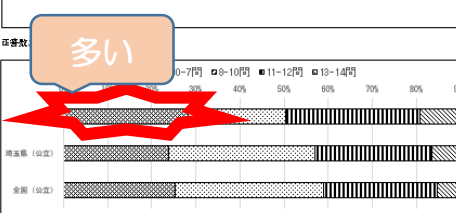


少ない



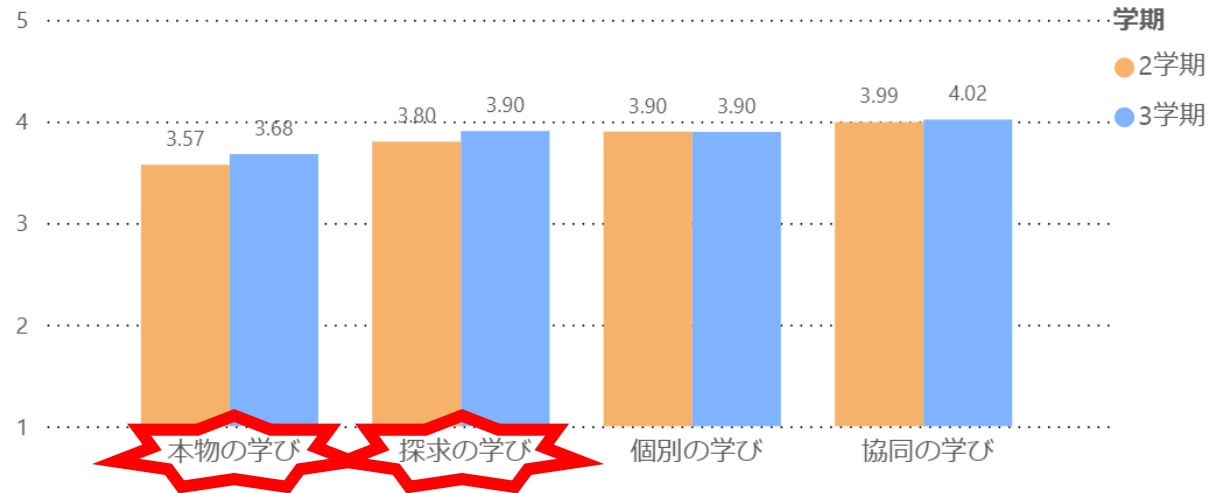
< 課題 >

- ・ 様々な段階の児童、つまづきが見られる。
- ・ 基本的な語句や計算の意味等の理解
- ・ 資料や情報を関連付けて思考すること
- ・ 自分の言葉で表現すること



②ScTNから

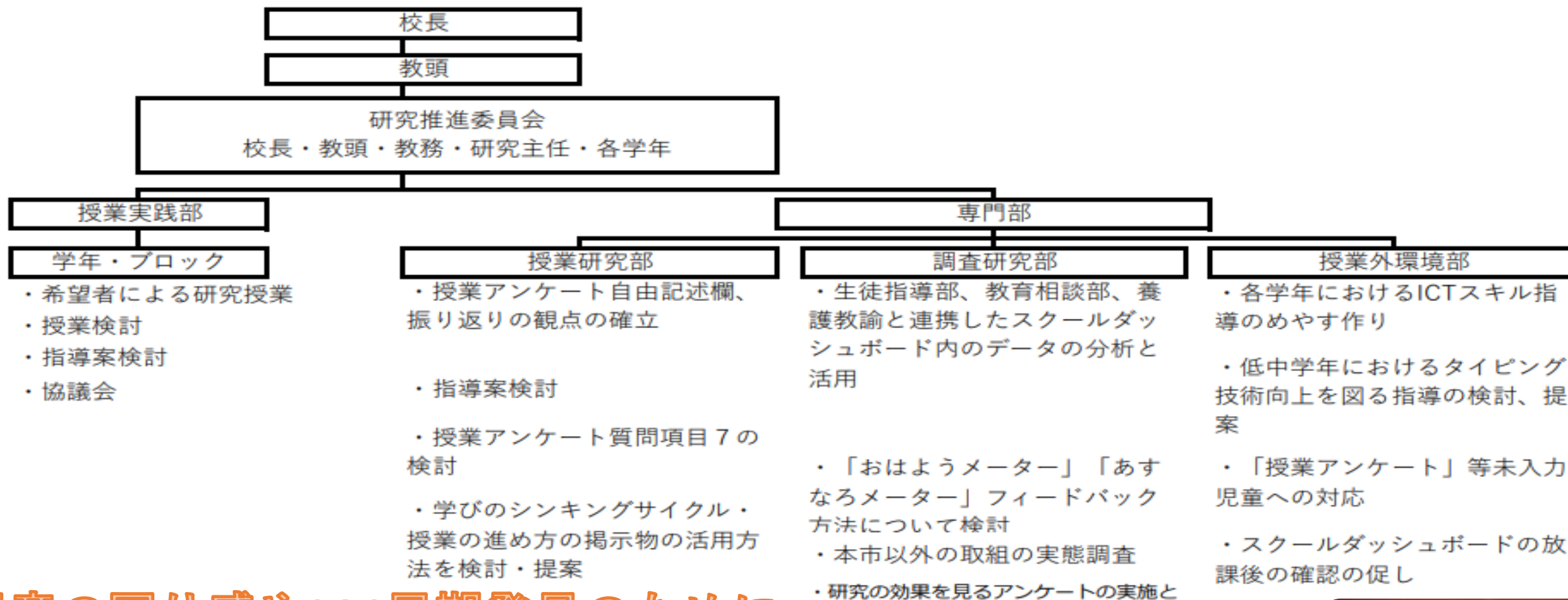
主体的・対話的で深い学びの経験



③学びの指標から

	校内平均	R6市平均	差
主体的	3.27	3.27	0.00
探究的	3.17	3.27	-0.10
ICT	3.00	3.08	-0.08
基礎	3.40	3.47	-0.07

○研修組織 & 既存に+α



児童の困り感やSOS早期発見のために

- スクールダッシュボードを生かした
- ①授業後の実態把握と授業改善 (Excel入力 毎週)
 - ②生徒指導部会・教育相談部会 (月1回)
 - ③校長・担任による声掛け (毎日)
 - ④講話・生活朝会 (10月おはようメーター等の喚起、2月「心と体の健康を高めよう」)



○大宮別所小の取組について

- ①教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫
- ②アンケートの入力によるデータの蓄積と教師・管理職の見取りと支援体制の確立
- ③各専門部（授業研究部・調査研究部・授業外環境部）での研究
- ④東京学芸大学 山下雅代 准教授との連携（データ分析や視察）
- ⑤教育相談部会でのデータ活用
- ⑥講話・生活朝会でのデータ活用
- ⑦「研修だより」等による教職員への周知

○大宮別所小の取組について

- ①教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫
- ②アンケートの入力によるデータの蓄積と教師・管理職の見取りと支援体制の確立
- ③各専門部（授業研究部・調査研究部・授業外環境部）での研究
- ④東京学芸大学 山下雅代 准教授との連携（データ分析や視察）
- ⑤教育相談部会でのデータ活用
- ⑥講話・生活朝会でのデータ活用
- ⑦「研修だより」等による教職員への周知

取組① 教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫

研究授業の実施

<研究授業・協議会>

5月	2年生	算数	大橋教諭
7月	6年生	GS	横山教諭
10月	4年生	体育	丸田教諭
11月	2年生	国語	大橋教諭
11月	3年生	体育	安達教諭・吉田教諭
1月	5年生	算数	山本教諭

- 新・手立て(例)**
- <主体的>**
1. シンキングサイクルの揭示物を活用した授業
 2. 継続的なパワーアップ問題の取組
 3. モデルの提示(例示)
 4. 既習の確認
 5. 発問の精選
- <対話的>**
6. 対話する場の設定と喚起、話し合いモデルの提示
 7. オクリンクプラスの活用
- <深い学び>**
8. 誤答の提示と根拠の明確化
 9. 情報を精査する活動の設定
 10. ループワークを生かした自己成長を促す場の設定
- <個別最適化学び・協働的な学びの一体的な充実>**
11. 探究学習のある単元計画
 12. ワークシートを活用
 13. Teamsを活用し、単元学習後の意見交流の場の設定
 14. オクリンクプラス・ノート・授業アンケートを活用した形成的評価とフィードバック
- <個別最適化学び・協働的な学びの一体的な充実>**
15. 学習スタイルを意図的に設定した単元計画
 16. 学習の手引きの作成
 17. 学習進度や内容の教師の見取り
 18. その他(ドリルパーク「学びなおしドリル」)

指導案には、児童の実態に、スクールダッシュボードやScTN等の分析結果を掲載。

第5学年 算数 学習指導案

児童の実態に、スクールダッシュボードやScTN等の分析結果を掲載。

今年度行った研究授業

私も同じように、登場人物は後悔するくらいとても悲しんでいると思ったよ。でも、私が根拠にしたのはこっちの文。なぜなら…

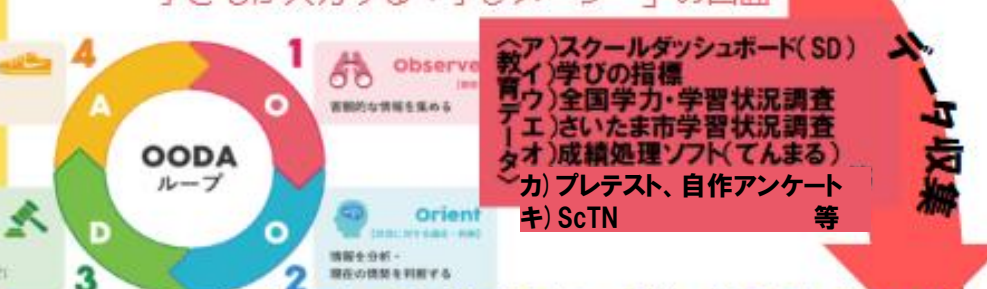
ぼくのテーマと同じテーマを選んだ友達は、ぼくと同じように考えているかな。オクリンクプラスで見よう。

もっといろいろな友達と会話して、自然の流れで英語で話せるようになりたいな。自分から友達に声をかけに行こう。

仮説の検証

分析

子どもが入力する「学びメーター」の画面



- データ収集
- ア) スクールダッシュボード(SD)
 - イ) 学びの指標
 - ウ) 全国学力・学習状況調査
 - エ) さいたま市学習状況調査
 - オ) 成績処理ソフト(てんまる)
 - カ) プレテスト、自作アンケート
 - キ) ScTN 等

タブレットで入力した日頃の授業の振り返りをAIの分析にかけ、児童の興味関心やつまずきを把握し、授業の手立てに生かすことができるようになりました。

教育委員会の先生方とオンラインで授業について検討している様子

目指す児童像に向け、授業でどのような手立てが有効か検討しました。これは、日頃の授業でも生かされています。



分析

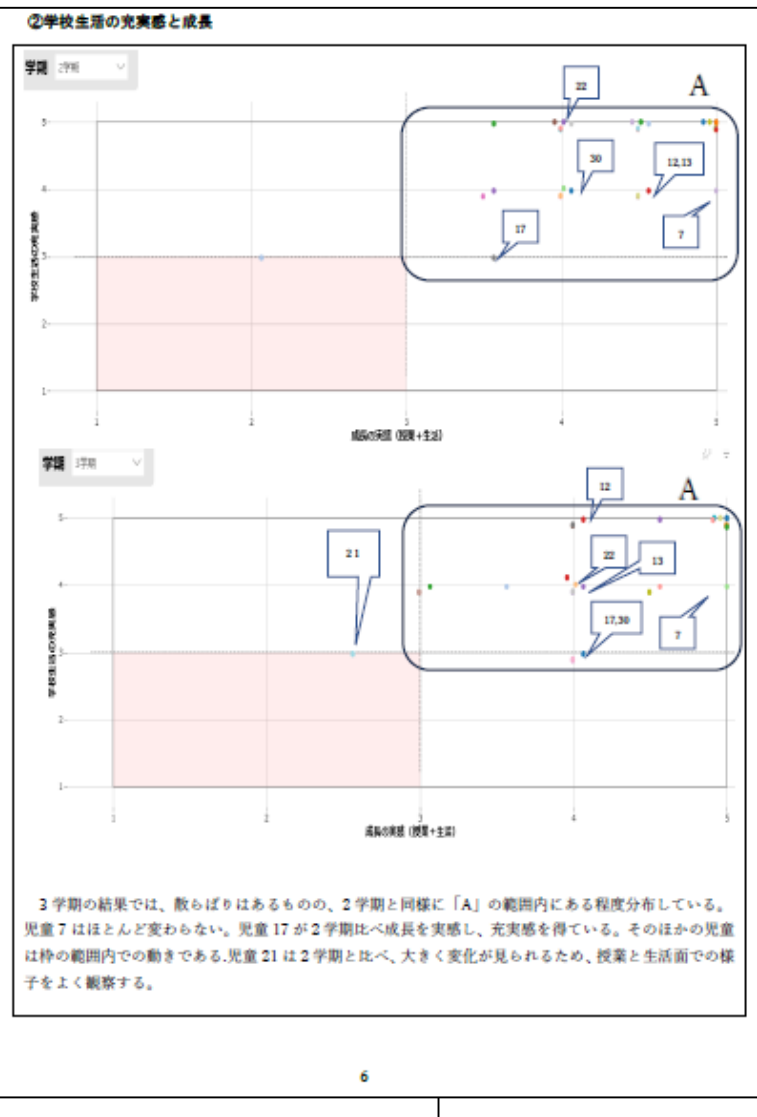
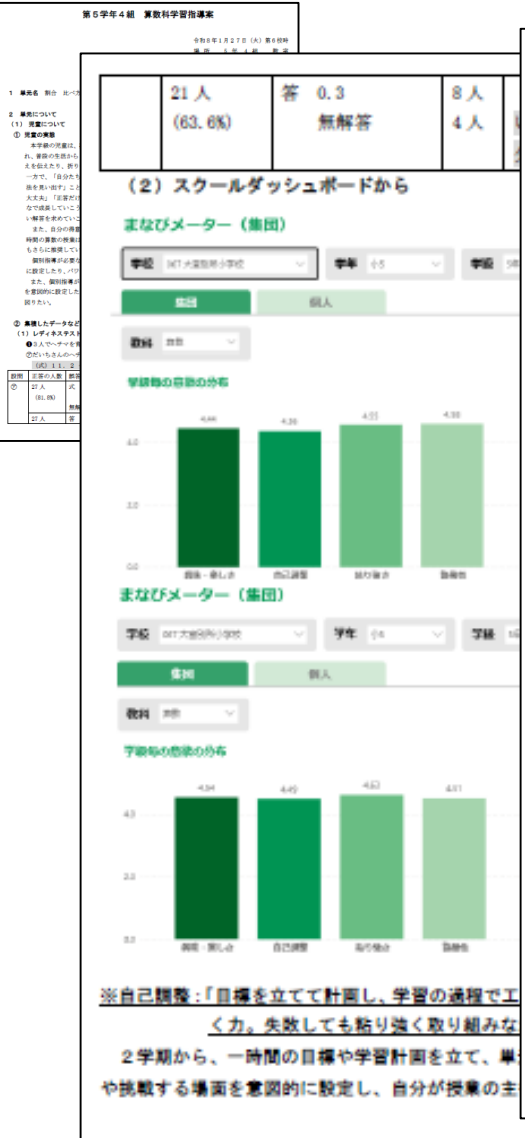
「学びメーター」が反映された教師のスクールダッシュボード(SD)画面

取組① 教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫



指導案の工夫

指導案には、児童の実態に、スクールダッシュボードやScTN等の分析結果、並びに、そこから気になる児童の「実態と行いたい手立て、期待する姿」を掲載。



これらのことから、正答率や回答内容で気になる児童について、以下のような手だてを講じる。

番号	実態	手だて	期待する姿
児童6	・欠席多い。 ・基礎基本が未定着。	・問題解決と一緒にいき、正しく理解し、計算方法を身に付けられるようにする。 ・家庭と連携して支援する。	・図や具体例などのヒントをもとに立式。 ・分からないことを質問する。
児童7	・算数苦手 意欲はある。 ・既習を結び付けるのが難しい。 ・一人で考えるが、聞けない。 ・家庭で親と学習。	・自力解決の始めの段階で、言葉の理解を促す。 ・問題解決と一緒にいく。	・順序立てて考える。 ・既習の結び付け。 ・友達や教師への質問
児童12	・算数苦手。 ・問題文理解不十分。 ・基礎基本が未定着。	・積極的に声掛けを行う。 ・友達との学び合いを進める。 ・問題文の説明、読解の支援 ・基本問題の反復。	・分かっていることを見分ける。 ・立式 ・解き方の見直しをもつ。
児童13	・算数苦手意識強い。 ・諦めずに取り組む。 ・友達と関わって学びを進める。	・自力解決の始めの段階で、言葉の理解を促す支援。 ・問題解決と一緒にいき正しく理解できるようにする。	・問題文をよく読んでわかることを確認できる。 ・図を書いてから立式。 ・見直しをもって学習に取り組む。
児童17	・理解力ある。 ・積極的に質問。 ・分からないと癩癩。 ・ソロで解決。	・机間指導の際に積極的に声掛けを行う。 ・学び合いを勧める。 ・不安に思う理由を明らかにし、肯定的な声掛けを行い、自信につながるようにする。	・図、式、言葉を組み合わせる。 ・より分かりやすく説明できる。
児童22	・算数苦手意識。 ・言葉で表すことが苦手。 ・友達と学ぶ。	・解決するためのキーワードだけを繰り返し指導。	・問題文の読解。 ・立式。 ・質問できる。
児童30	・授業中には「一人で」解決。 ・パワーアップ問題で不正解。 ・1問に掛ける時間が長い。	・問題解決と一緒にいく。 ・正しく理解し、計算方法を支援。 ・家庭と連携した支援。	・分からない時は質問する。 ・問題文の読解

日々の指導の中で、教師が感覚的に捉えているものと合っている。

教師の見取りでは、気付かなかった実態が明らかになった。

取組① 教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を 目指した指導と評価の工夫

家庭学習でデジタル教材の周知

② PuYoLi

MANUAL_STUDENT.PDF より抜粋

file:///C:/Users/t09861/AppData/Local/Temp/MicrosoftEdgeDownloads/60b25989-2261-4655-9b4c-4ccd955c951/manual_student.pdf

1 先生から受け取った URL ではじめる
児童から受け取った URL (クラス URL) にアクセスすると、予めホーム画面につながります。ここから、「ミッションに挑戦しよう」と「チャレンジするソング」の2つのモードに切り替えることができます。はじめに、画面の【新】と【新】をタップしてください。
※画面の拡大縮小も可能です。いつでも拡大縮小してご利用ください。

2 教材の表紙からはじめる
①教材の表紙についている QR コードを読み取ってください。
※ QR コード は株式会社アンダーウェアの登録商標です。
▼教材の選択
教材 「くりかえし漢字ドリル」、「漢字スキルアップ」、「国語の力」、「国語ドリル」
算数 「くりかえし計算ドリル」、「計算スキルアップ」、「算数ドリル」
② QR コードを読み取ると、下のホーム画面につながります。ここから、「デジタル問題」と「漢字アイランド」「計算アイランド」の2つのモードに切り替えることができます。

3 ホーム画面 (漢字の例)
デジタル問題モード
漢字アイランド・計算アイランドモード
漢字アイランド・計算アイランドモード
漢字アイランド・計算アイランドモード
漢字アイランド・計算アイランドモード

本校は全学年、ぶんけいの計算ドリルを採択しており、ドリルからだと算数が利用可能。
教師の判断によっては、端末による学力テストも実施可能。



URLはTeamsを通じて児童に配信されることが多いです。本年度は、ぶんけいの国語と算数のテストを採択しているので、教師が配信する場合は国語と算数の2教科からとなります。

③ デジタマかんじ



漢字ドリル表紙にあるQRコードから、書き順練習やことばクイズ、漢字テストに取り組みます。

令和7年度 研修だより

さいたま市立大宮別所小学校 2月 日発行

本校の「学校課題研修」を紹介します。
「わかった!」「もっとやりたい!」子を増やしたい!

取り組んできたこと <授業を支える土台部分>

授業研究部 調査研究部 授業外環境部

児童が授業の振り返りを通して、自分は ①全国の先行研究調べました。 ②児童がメディアリテラシーを身に付ける機会を増やしました。

児童が使用している端末教材の紹介 (一部) +保護者による確認の仕方

①ドリルパーク (漢字ドリル)
Lgateから、児童のアカウントで「ミライシード」に入ると、ドリルパークに入ることができます。「ミライシード」には、他にも様々なアプリがあり、授業等でノートと同じように活用しています。時々使用状況をご確認ください。
ドリルパーク利用マニュアル より抜粋
https://manabipocket.ed-cl.com/wp/wp-content/uploads/2024/01/miraseed_drill_park_manual.pdf

これまで
1 2

MESSA

④ デジタマかんじ
漢字ドリル表紙にあるQRコードから、書き順練習やことばクイズ、漢字テストに取り組みます。

⑤ スタサザ
来年度の継続は致しません。

取組① 教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を 目指した指導と評価の工夫

教育委員会の指導主事を招聘した協議会



協議の柱

- ①授業（手立て）について
- ②教育データを活用した実態把握について
⇒明日からの自分の実践にどのように生かすか（共有Excelシートに入力）



クラス	氏名	明日の自分の実践に、何をもっと生かすか
7 2-2	勝井	...
8 2-3	高田	...
9 3-1	初田	...
10 3-2	高田	...
11 3-3	安達	...
12 4-2	嶋峯	...
13 4-3	山崎	...

- 新・手立て（例）**
- <主体的>
 - シンキングサイクルの揭示物を活用した授業
 - 継続的なパワーアップ問題の取組
 - モデルの提示（例示）
 - 既習の確認
 - 発問の精選
 - <対話的>
 - 対話する場の設定と喚起、話し合いモデルの提示
 - オクリンクプラスの活用
 - <深い学び>
 - 誤答の提示と根拠の明確化
 - 情報を精査する活動の設定
 - ループリックを生かした自己成長を促す場の設定
 - 探究学習のある単元計画
 - ワークシートの活用
 - Teamsを活用し、単元学習後の意見交流の場の設定
 - オクリンクプラス・ノート・授業アンケートを活用した**形成的評価とフィードバック**
 - <個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実>
 - 学習スタイルを意図的に設定した単元計画
 - 学習の手引きの作成
 - 学習進度や内容の教師の見取り
 - その他（ドリルパーク「学びなおしドリル」）

教師の入力（一部）

- 学習の到達度だけではなく、非認知能力も児童を適切に把握し授業を構成するうえで重要だということを感じたので、ScTNの結果を大切にしたい。
- 学びメーターやアンケートを利活用して授業展開を考えることが普段からできるようにしていきたい。授業内容では、2つの式を確認してから1つの式に転換できると良かった。児童同士の気づきが活発に行われていたので、自クラスでも生かしていきたい。
- データを見て、やはり学力が低い子、配慮が必要な子を中心に見ていた。中間層の学力を上げることも大事だと学んだ。しっかりデータを見ていきたい。学びのシンキングサイクルの活用で悩んでいたが今日の授業を参考に実践する。

研究授業⇒日頃の授業へ

取組① 教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫

児童の変容

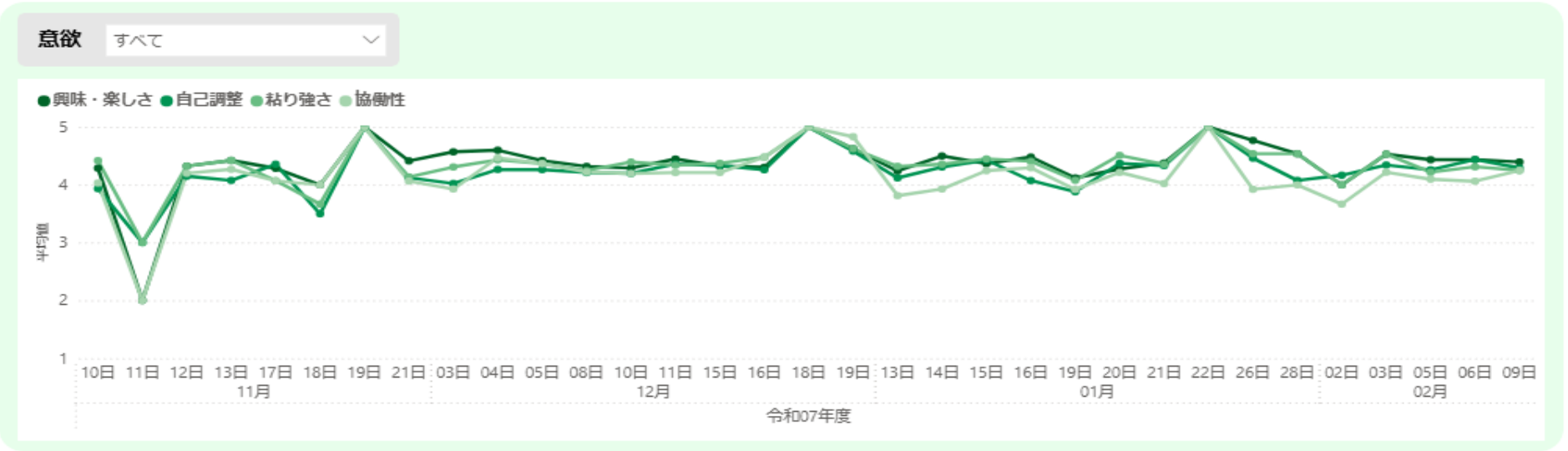
【研究校】研究用ダッシュボード

Copilot

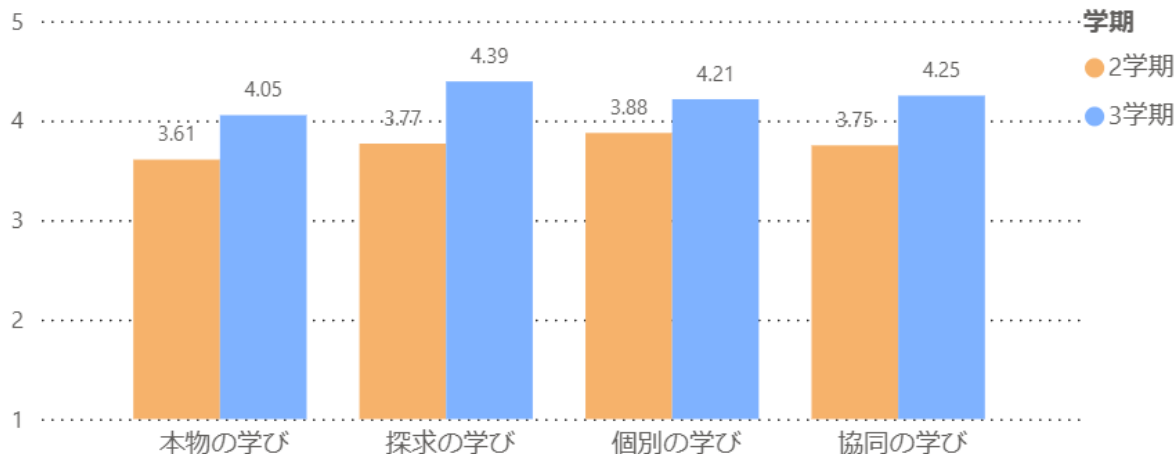
研究用ダッシュボード

- ScTN 学習経験 (集団)
- ScTN 学習経験 (個人)
- ScTN 学習の姿勢 (集団・個人)
- ScTN 認知的個性
- まなびメーター (集団)

回答の推移



主体的・対話的で深い学びの経験



＜ある学級の推移や変容＞

- 「興味・楽しさ、自己調整、粘り強さ、協働性」については、数値が高い時もあれば低い時もあった。教科の特性や内容によるものと考えられる。
- 「主体的・対話的で深い学びの経験」の数値は、大幅に上がった。

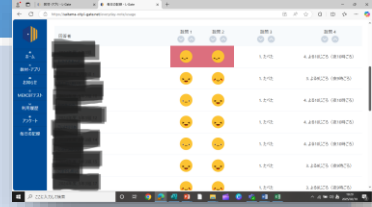
○大宮別所小の取組について

- ①教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫
- ②アンケートの入力によるデータの蓄積と教師・管理職の見取りと支援体制の確立
- ③各専門部（授業研究部・調査研究部・授業外環境部）での研究
- ④東京学芸大学 山下雅代 准教授との連携（データ分析や視察）
- ⑤教育相談部会でのデータ活用
- ⑥講話・生活朝会でのデータ活用
- ⑦「研修だより」等による教職員への周知

取組② アンケートの入力によるデータの蓄積と教師・管理職の見取りと支援体制の確立

主な一日の流れ

時間	児童	教師
登校後 朝の会～業間休み (DL:昼休み)	おはようメーター入力	おはようメーター・前日のあすなるメーターの確認 入力された情報から、 ①未入力児童への声掛け ②配慮を要する児童へ聞き取り、状況把握、励まし等
授業中	学びメーター入力	導入時に、前回の「学びメーター」を活用した前時の学習の確認 終末時、「学びメーター」を確認し、個への声掛け、全体へのフィードバック <div data-bbox="1014 833 1939 1068" style="background-color: #FFD700; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p><管理職></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全クラスを巡回 ○全クラス担任へのフィードバック ○チェックの入った児童への声掛け </div>
昼休み 帰りの会	あすなるメーター入力	
放課後 16:20		スクールダッシュボードで確認、AI分析、Excelシート入力 (最低週1回)



○大宮別所小の取組について

- ①教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫
- ②アンケートの入力によるデータの蓄積と教師・管理職の見取りと支援体制の確立
- ③各専門部（授業研究部・調査研究部・授業外環境部）での研究
- ④東京学芸大学 山下雅代 准教授との連携（データ分析や視察）
- ⑤教育相談部会でのデータ活用
- ⑥講話・生活朝会でのデータ活用
- ⑦「研修だより」等による教職員への周知

授業研究部

○ふり返りの視点の明確化

「学びメーター」の記述項目は、困っている時の相談欄となっているが、本校はそれに加えて前年度の研究を継続し、以下の視点を示して記述するよう、指導している。それは、①自由記述に児童の現状が詳しく表れるから。②スクールダッシュボード上のAI要約に掛け実態把握に生かすため。である。

児童が授業の振り返りを通して、自分はどのような力を身に付けることができたのか、そしてそれは何に繋がるのか学習の意味付けができ、次の学習へ自分で道筋をつけ意欲をもって取り組めるように、振り返りの視点を定めた。これは、授業者にとっても、自分の指導が児童一人ひとりに行き届くものであったかを確認する上で、非常に大切なものになった。

ふりかえりのしてん

①「なるほど!」とおもったこと

②じぶんのまなびかたについて

③つぎはどんなふうがんばりたい?
(なにを?どのように?)

①のれい

百のくらいのあるたし算も、十のくらいまでのたし算と同じようにかんがえればとけるとわかりました。

②のれい

- 友だちが式と図でかんがえていたから、わたしもつぎはいろいろなほうでかんがえたいです。
- みんなでまなんていると、まちがえやすいポイントもわかるから、みんなでかんがえるっておもしろい。

③のれい

百のくらいまでのけいさんができたので、千のくらいのある計さんも同じようにできると思います。やってみたいです。

低学年用

ふり返りの視点

①「なるほど!」と思ったこと
き習、他教科、日常生活と
どうつながるか

②自分の学び方について

③次回は何を・
どのように学びたい?

①と③か、②と③の組み合わせ
で書こう♪ (もちろん全部書いてもOK)

①と③の例

今日は、逆上がりにちょう戦した。マット運動の後転で学んだ「へそを見る」動きを取り入れたら、上手に回れることが分かった。次回はマット運動で学んだ着地をさか上がりで意ききすることで、完成度を上げたい。

②と③の例

今日は、逆上がりにちょう戦した。友だちのほじょで回転の感覚をつかむことができたが、いきおいが足りず一人では回れなかった。次回は、きれいに回れているAさんにアドバイスをもらって、ける力と感覚をつかみたい。

高学年用

自由記述の実際

< 2年生 >

音読劇は③の場面にしました。じいさまの思いがよく表れるように、いろいろな言葉の言い方を変えながら練習しました。次回は、友達と考えを言い合いながら、もっとよい言い方を見つけたいです。

まずは、
質より量!

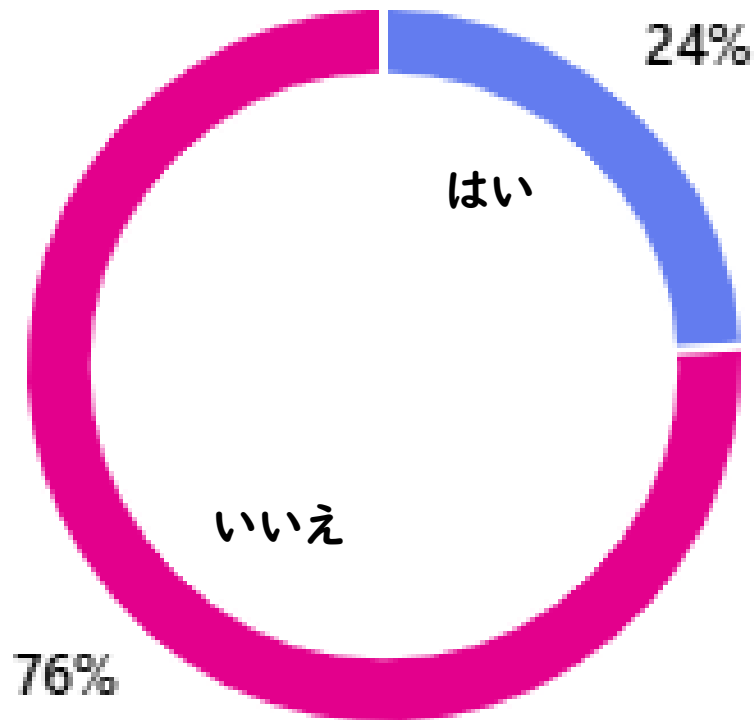
< 6年生 >

②この前と今日で年表を書いてみて改めて自分の生き方についてより深く知れました。③次回は最後の自分の考えというところが書けていないので、書いて完成させたいです。

調査研究部

- ① 全国の先行研究を調査
- ② 「おはようメーター・あすなろメーター」や「授業アンケート（学びメーター）」が児童に与える影響をアンケート調査

「おはようメーター、あすなろメーターの気持ちや体調で「悪い」「とても悪い」と答えたことがありますか？」



「その時、担任や校長先生に声を掛けられて、意識や行動は変わりましたか。」

変わった 31人
変わらなかった・分からない 18人

- 少し楽になりました。
- 嫌なことがあった時に、先生に伝えやすくなりました。
- 相談できる人がたくさんいることを知って、安心しました。
- 体調不良の時、声を掛けてもらったことであまり無理をしないように行動しました。
- いじめられていた時、すぐに解決しました。

授業外環境部

- ①児童がメディアリテラシーを身に付けることができるように、「タブレットを使う時の約束」を策定・周知 HPとL-gateに掲載した。
 - ②児童のICTスキル向上を目指し、本校の実態から低・中・高学年ごとに目安（ICTスキル表）を作成、教室掲示した。今後は、本校HPとL-gateに掲載する予定。
 - ③L-gateに「playgram」「寿司打」やICT支援員が作成した「やってみタイプ」を掲載した。
- ※タイピング力向上→テスト後の時間、課題等を終えた隙間時間を活用

↓①メディアリテラシー

タブレットを使うときの約束
まずは…

- タブレットは学校が皆さんに貸している学習道具です。図書館の本と同じです。ルールやマナーをしっかり守って、大切に使いましょう。
- タブレットを操作するときのルール
 - ①タブレットは自分のアカウント（ID、パスワード）を使いましょう。自分のアカウント（ID・パスワード）は他の人には教えません。（個人情報です。）他人のアカウント（ID・パスワード）は使いません。
 - ②タブレット内の書き込みでは、相手（誰か）の嫌がることを書いたり、書いたりしてはいけません。
 - ③カメラでの撮影は相手（誰か）に嫌な思いをさせてはいけません。
 - ④友達の写真や作品は個人情報です。撮った写真は、Teams等のインターネットでは絶対に、投稿してはいけません。授業等で使う場合は先生に相談しましょう。
- タブレットを管理するときのルール
 - ①タブレットを使わないときには、タブレットケースに入れておきましょう。
 - ②タブレットを教室から運ぶ時は、タブレットケースに入れて運びましょう。タブレットは教科書などと同じようにポケットには入れないようにしましょう。
 - ③タブレットを持ち帰る時は、ケースごとランドセルに入れて持ち帰ります。持ち帰った後、貸出使用できるように充電をしましょう。
 - ※持ち帰りについての約束は担任の先生とよく確認しましょう。
 - ④タブレットで困ったことがあったら、先生に声をかけましょう。
- タブレットを使うときのマナー
 - ①タブレットを使わないときは静かにしましょう。
 - ②タブレットを使うときは先生や友達の話を聴くとき 別の作業をするときなど、タブレットを使わないときは静かにしましょう。
 - ③周りの友達に迷惑にならないよう音 量などに気をつけて使いましょう。

↓②ICTスキル表

学年	きのうめい	なにごできる	チェック
小学校1、2年生	ログイン/ログアウト シャットダウン Windows Update (Windows アップデート) 音声(マイク) ピンチイン・ピンチアウト キーボード	カードをみずに、ID (アイディ) やパスワードを入力しログイン/ログアウトできる。 キーボードをつかって、シャットダウンができる。 こうしんマークのことがわかり、じぶんでこうしんして、さいきどうできる。 前子(マイク)をきいたり、つなげたりできる。 ピンチイン・ピンチアウトがそうなどを、おさくしたり、ちいさくしたりできる。 まちがえたもじをけしたり、にゅうりよくしたもじをけしていでる。 カメラでしんやどうがとれる。また、インカメラ・アウトカメラをきりかえられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
小学校3、4年生	プロジェクトに映す ローマ字日本語入力 スクリーンショット	Windows+Kでプロジェクトにつなげ、画面をうつすことができる。 全角半角キーで日本語が入力できるモードにかえられる。 ローマ字入力で日本語が入力かいうよう・空白・記号・カタカナの入力ができる。 アルファベットの入力か大文字・小文字・全角・半角をかえながら入力できる。 1分間に40文字以上入力できる。 スクリーンショット (Windows+PrntSc) をとることができる。 文字やそうをコピーして、べつのはりにはりけることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
小学校5、6年生	機能名 プロジェクトに映す ローマ字日本語入力 スクリーンショット 英語・記号入力 カメラ 情報収集 投稿 安全・モラル	何ができる Windows+Kでプロジェクトにつなげ画面を映すことができる。 全角半角キーで日本語が入力できるモードにかえられる。 ローマ字入力で日本語が入力できる改行・空白・記号・カタカナの入力ができる。 アルファベットの入力ができる大文字・小文字・全角・半角をかえながら入力できる。 1分間に60文字以上入力できる。 スクリーンショット (Windows+PrntSc) を撮るができる。 画面を見ながらタイピングができる。 ピントや角度を考えて撮影できる。 Forms機能を使って、アンケートを作成し集計できる。 チームの【投稿】で、投稿らんにファイルのてん付ができる。 チームの【ファイル】からファイルを開いたり、編集したりできる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

③タイピング力向上→

playgram プレイグラム タイピング
スタディサブリ

スラディサブリ
スタディサブリ

Gakken キッズネット
なぜ？を楽しく 学研キッズネット
まんがひみつぶんこ
みんなが疑問に思っていることや、知りたいことを分かりやすく説明した「まんがでわかるキッズ-まんがひみつ文庫」

Kahoot!
Kahoot! (カート)

E-net
デジタル教材

寿司打
寿司打

やってみタイプ
やってみタイプ

取組③ 各専門部（授業研究部・調査研究部・授業外環境部）での研究

④毎日定時（16:20）にチャイムを鳴らし、教師がSDのデータから今日の授業を振り返り、明日の授業について改善・検討する時間を設定した。

↓④EXCEL入力（教師も意思決定）

	10月4曜日	11月1曜日	11月2曜日
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着に向けて、授業の導入で漢字の確認を定期的に行った。 黒板の3次で、中づりを作る活動を行った。モデル文を提示することで、「これまでの学習を活かして頑張ろう」という感想も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で前日の授業アンケートを紹介することで、書き方の学習と紹介された子どもの自信につながっているように感じる。 自分の学び方を振り返り、次への学びにつなげている児童が増えた。既習を省略したり、つながりを考えさせられると必要感が生まれると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報の収集」での時間が足りない様子に感じた。そのため、「わかった、できた」がうまくつながらず児童が見受けられた。そのため、時間配分を考え授業を構成したい。 ソロとチームプレイの使い分けを自分なりに考えて次の時間に生かしている児童が増えてきたように感じる。その傾向を言葉で引き出すようにコーチングをしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> より上げ、振り返りの質を高めたい。 「自分の学び方」というよたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会では資料の画像からわかったことたくさん発表できるよようになってきた。そこから思考して予想を立てることができるよう児童も少しずつ増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報のどの部分が大切なのかを見分けることが難しい。まとめの時間を通して、すっきりとまとめる工夫を教えていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> その後にも考えたこと話し合いの中で既習をいかしる。 	<ul style="list-style-type: none"> ハードルは先週と同じように進めている。自分に合うレーンが見つかってきたようで、上手になってきている。状態も始まり、高さ、補助器具、挑戦する技と、選択して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 走りのコツを先週に伝えた。それによって、腕の振り、足の上の向き、上半身の傾け方など意識したいという振り返りが多かった。 冷感から持久走が始まった。各個人でペースを調整することができるようになるだけ細かタイムを踏み上げるようにしている。

- ☑
- 主な成果と課題（成果◎、課題△）
- ◎「わかった」「楽しい」と感じる児童が増加。
 - ◎自己決定や学び方選択の機会を増やすことで主体性が向上。
 - ◎授業アンケートや自由記述の質が改善し、振り返りが具体化。
 - △時間配分不足でアンケート未入力が多い。
 - △学び方選択が難しい児童や、意欲が低い児童への個別支援。
 - △単元によって理解度や意欲に差があり、教材研究や発問の吟味が必要。

↓入力されたEXCELをCOPILOTにかけると…

共通の取り組み

- スクールダッシュボードや学びメーターの活用：児童の意欲・達成感・主体性をデータで把握し、授業改善に反映。
- 手だての工夫：
 - 主体的な学び：シンキングサイクル、パワーアップ問題、モデル提示
 - 対話的な学び：対話の場設定
 - 深い学び：誤答の提示、情報精査、ループリック活用
 - ICTやプログラミング、Canvaなどのツールを活用した授業デザイン。

- 今後の改善ポイント
 - 授業アンケートの時間確保と習慣化。
 - 個別支援の強化（特に意欲が低い児童）。
 - ICT活用や協働的な学びの場の充実。
 - ループリックや目標設定を児童と共有し、自己成長を促す。

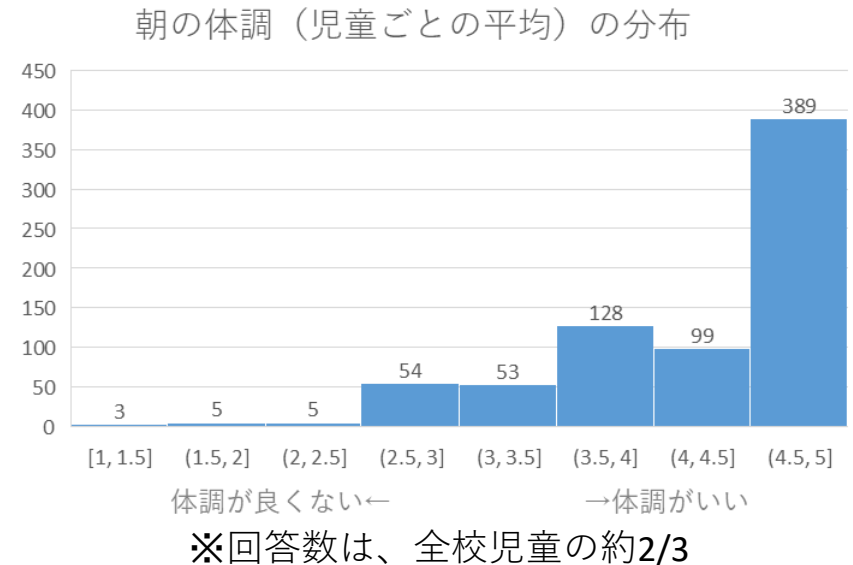
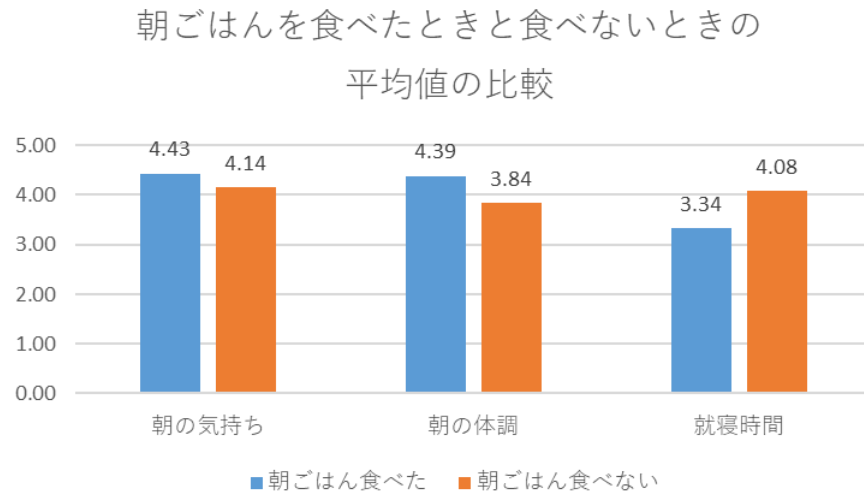
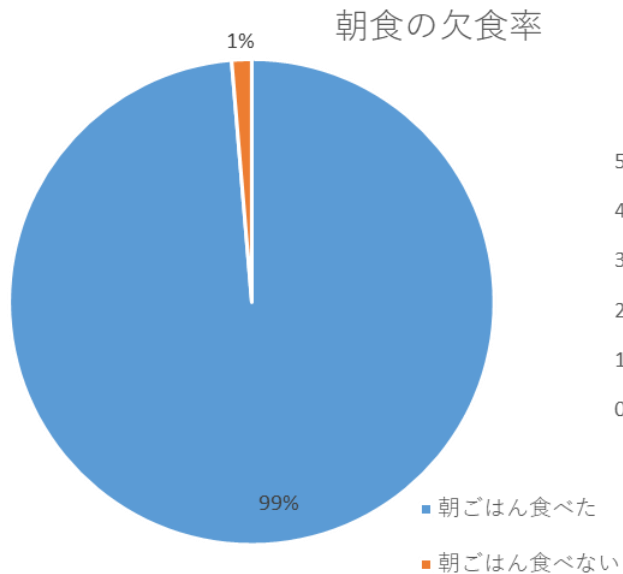


○大宮別所小の取組について

- ①教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫
- ②アンケートの入力によるデータの蓄積と教師・管理職の見取りと支援体制の確立
- ③各専門部（授業研究部・調査研究部・授業外環境部）での研究
- ④東京学芸大学 山下雅代 准教授との連携（データ分析や視察）
- ⑤教育相談部会でのデータ活用
- ⑥講話・生活朝会でのデータ活用
- ⑦「研修だより」等による教職員への周知

アンケート分析結果

- 本校の児童は、ほぼ100%の児童が毎日朝食を食べてから登校している。
- 朝食を食べてこない時、朝の気持ち・朝の体調は少し低く、寝る時間も少し遅い傾向が見られる。
- 気分が良くない、調子が悪いから朝食を食べられない場合も考えられる。



取組⑤ 教育相談部会でのデータ活用

- 毎月の教育相談部会で、児童の情報を共有している中で特に気になる児童についてはスクールダッシュボードでも様子を確認する。

○大宮別所小の取組について

- ①教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫
- ②アンケートの入力によるデータの蓄積と教師・管理職の見取りと支援体制の確立
- ③各専門部（授業研究部・調査研究部・授業外環境部）での研究
- ④東京学芸大学 山下雅代 准教授との連携（データ分析や視察）
- ⑤教育相談部会でのデータ活用
- ⑥講話・生活朝会でのデータ活用**
- ⑦「研修だより」等による教職員への周知

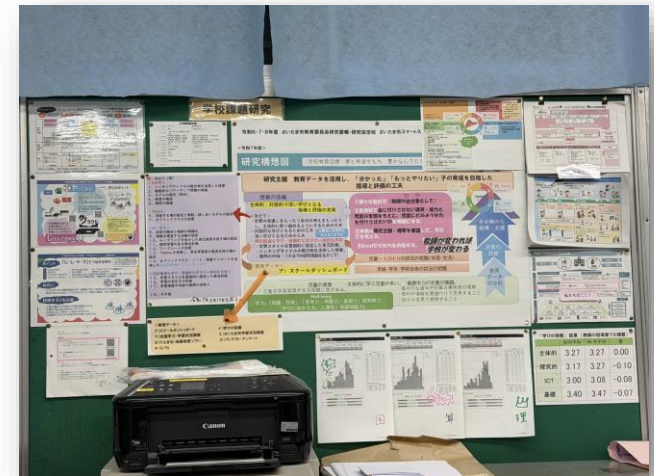
○大宮別所小の取組について

- ①教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫
- ②アンケートの入力によるデータの蓄積と教師・管理職の見取りと支援体制の確立
- ③各専門部（授業研究部・調査研究部・授業外環境部）での研究
- ④東京学芸大学 山下雅代 准教授との連携（データ分析や視察）
- ⑤教育相談部会でのデータ活用
- ⑥講話・生活朝会でのデータ活用
- ⑦「研修だより」等による教職員への周知

研修だよりの主な内容

- ①研修主任の所感
- ②formsを活用した「パワーアップ問題」
- ③スクールダッシュボードの見方（複数回）
- ④成績処理ソフト（ぶんけい「てんまる」）の使い方
- ⑤ぶんけい てんまるプリント&動画、PuYoLiについて
- ⑥Kahoot!を使った授業
- ⑦L-Gateの機能アップデート情報発信
- ⑧ScTNについて
- ⑨「学びメーター」のスクールダッシュボードの見方
- ⑩デジタル教材による「学カテスト」について
- （⑪職員室壁面に、研修の情報コーナー設置）

<研修情報コーナー>



○成果と課題（◎成果、△課題）

- ◎これまで、授業改善の手がかりは主に児童の振り返り記述から得てきた。しかし、詳しく書いている児童の記述に注目するあまり、無記入の児童や簡単なコメントにとどまっている児童の理解度や内面の声を十分に捉えられていなかったことに気づいた。数値データを活用することで、これまで十分に把握できていなかった児童の理解のつまずきや困り感が可視化され、従来は見落としていた部分にも目を向けられるようになった。その結果、授業改善をよりの確に行えるようになり、改善の質が高まった。
- ◎スクールダッシュボードのデータの数が今年度大幅に増え、児童について肌感で感じていたものが、きちんとデータ化されて、児童に対する声掛けの工夫がしやすくなり、授業改善につなげることができた。
- ◎学びメーターのデータで打っている記録からAIによる診断が出る。その内容が非常に的を得ており、指導法の工夫がしやすい。声掛け、教師の発問の工夫がしやすく、児童に還元できるようになった。気を付けるポイントが明確で分かりやすいと感じた。
- ◎おはようメーターで就寝時間が遅い児童の聞き取りをしたところ、具体的に家庭の実態を把握でき、SSWにつなげることが出来た。教育相談・生徒指導でも活用ができると改めて実感することができた。
- △ある程度の研究の形が見えてきたものの、まだ学校として定着していないのが実際である。来年度に繋げたい。

○来年度の取組

- ScTNの定期的な実施（ScTNの読み方研修）
- 教育データから、自分の指導の目標と仮説立て、手立て設定、検証
- タイピング力向上
- 「おはようメーター・あすなろメーター・学びメーター」の確実な実施と把握、声掛け
- 教育相談・生徒指導部会での活用促進
- 国語・算数を中心とした授業検討・研究授業・協議会
- 板書に、問い（課題）と別に「身につけさせたい力（子どもの言葉だと、『身につけたい力』）を明記
- ペアを組んで授業参観（例：ブロック内、ベテランと若手）
- 3部会（授業研究部・調査研究部・授業外環境部）は検討

1 研修時間の確保

- ・ 推進委員会前に、研修委員長、副委員長と方向性の確認をした。

2 研究授業日の調整、指導者招聘

- ・ 研究授業において、毎回、教科担当＋教育データ担当の2名の指導者を招聘した。
- ・ メインは、本校の研究主題である「わかった!」「もっとやりたい!」子の育成である。

そこにデータの利活用を取り入れ、エビデンスのある児童の実態及び個別の指導の手立てを図った。

- ・ 取り扱うデータについて、助言をした。

3 講話朝会にて

- ・ 講話のテーマの一部として、児童に直接「おはよう・あすなるメーター」、授業の振り返りの入力を促した。

4 児童の教室訪問、担任との情報共有

- ・ 平素の見回り＋α

・ 「ここに入れば、話を聴いてもらえると思いました。」

「声をかけてもらって、気持ちが一変になりました。」

本年度、御指導くださった先生方

<教科指導>

教育課程指導課	研究推進・振興係	主任指導主事	小林	由美恵	様
	幼・小学校教育係	主任指導主事	清水	武蔵	様
	中学校教育係	指導主事	千葉	啓太	様
	国際教育係	主任指導主事〔兼〕係長	伊澤	幸恵	様
教育研究所	調査研究係	主任指導主事〔兼〕係長	白田	大地	様

<ワーキンググループ>

健康教育課	健康教育係	主任指導主事	西片	隆晴	様
教育研究所	調査研究係	主任指導主事	吉野山	慎	様
	研修係	主任指導主事	秋永	圭子	様
	ICT教育推進係	主任指導主事	渡曾	哲弘	様
		主任指導主事	槁本	貴大	様

本年度、研究に携わった本校職員 ◎研究主任 ○研究推進委員

校長	神田 朋恵	4年	○加藤 史帆	本部	奈良部 浩美	茂津目 悦子	梯 孝子
教頭	古川 覚		鐵車 梨乃		小山 友奏	福原 佳代子	井澤 孝子
教務主任 理科専科	○江田 和明		山崎 勝弘		渡部 珠美	伊藤 さゆり	金子 美奈子
1年	伊東 恵	5年	丸田 梨花子		鈴木 美咲	鈴木 深雪	寺田 泉
	伊藤 洋志		根津 雅子		神田 百栄	佐藤 淳子	浜野 冬樹
	○昆 春奈		中村 竜馬		吉田 亜規子	小池 麻美	永田 博美
	松山 菜々子		浜木 彩菜		菅谷 未歩	長野 幸子	土橋 憲夫
2年	久保 美奈	6年	○山本 祐大		磯田 恵美	加藤 学	岩瀬 希望
	藤井 爽子		天野 紀子		石川 重雄	戸澤 晶子	小暮 千佳
	高田 晋太郎		佐藤 治紀		分須 千穂	辻 泰子	
	◎大橋 みぎは		安武 初音		森 奈津子	ルンバ エリカ メイ リゴン	
3年	○前田 恵子		○小守 恭平		オコナー トニー アントワネット		
	宮田 一輝	なのはな	折原 弘樹	なのはな	吉田 千尋		
	安達 友香		奈良 雅哉		榎本 嬉楽梨		